

Oracle® Crystal Ball

Oracle® Crystal Ball Decision Optimizer

Oracle® Crystal Ball Enterprise Performance Management

Oracle® Crystal Ball Classroom Student Edition

Oracle® Crystal Ball Classroom Faculty Edition

*Oracle® Crystal Ball Enterprise Performance Management for Oracle
Hyperion Enterprise Planning Suite*

Oracle® Crystal Ball Suite

Installation and Licensing Guide

リリース 11.1.2.3

Crystal Ball Installation and Licensing Guide, 11.1.2.3

Copyright © 1988, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	5
第 1 章 はじめに	7
始める前に	7
システムの要件	7
Crystal Ball のインターナショナル・サポート	9
Microsoft .NET Framework	10
Crystal Ball と Microsoft Windows Vista	10
旧バージョンの Crystal Ball をご使用のユーザーへの注意	10
Crystal Ball Decision Optimizer をご使用のユーザーへの注意	11
追加リソース	11
第 2 章 Crystal Ball のインストールとライセンス	13
Crystal Ball のインストールとライセンスに関するガイドライン	13
Crystal Ball のインストール	14
Crystal Ball のライセンス	18
スクリプトによる Crystal Ball のインストールとライセンス	20
管理インストールの実行	21
インストール後に Crystal Ball を自動的にライセンス	21
第 3 章 インストール後の手順とトラブルシューティング	23
Crystal Ball の起動	23
「ようこそ」画面	23
Microsoft Excel とともに自動起動	24
Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作	26
Crystal Ball のアンインストール	27
Crystal Ball の手動アンインストール	28
スクリプトによる Crystal Ball のアンインストール	28
トラブルシューティング	29
アドイン無効のメッセージ	29
インストール中にウイルス対策の警告が表示される	30
ソフトウェアとハードウェアの 32 ビット/64 ビット互換性に関する問題	30

互換性に関するその他の問題	31
「スタート」メニューから Crystal Ball を実行	32
Crystal Ball ツールの問題	33
README ファイルの確認	33
インストール・ログ・ファイルその他のログ・ファイルの表示	33
プリファレンス・ファイルの検索	34
Crystal Ball の詳細	34
付録 A. Microsoft Excel 2007 以降の互換性と変換に関する問題	35
Microsoft Excel 2007 以降のファイル・タイプ	35
Crystal Ball の新しいデータ形式	35
Microsoft Excel 2007 における Analysis Toolpak 関数の移植性	36
Microsoft Excel 2007 以降への変換	36
Microsoft Excel 2007 以降への変換コマンドの使用	36
まれに発生するデータ損失のシナリオ	37
新しい形式で保存してから、古い形式で再保存	37
Microsoft Excel 2003 以前の形式で保存し、再保存	37

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

はじめに

この章の内容

始める前に.....	7
システムの要件	7
Crystal Ball の国際的・サポート	9
Microsoft .NET Framework.....	10
Crystal Ball と Microsoft Windows Vista.....	10
旧バージョンの Crystal Ball をご使用のユーザーへの注意.....	10
Crystal Ball Decision Optimizer をご使用のユーザーへの注意	11
追加リソース.....	11

始める前に

このガイドでは、次の製品と、関連する Crystal Ball 製品(Oracle Crystal Ball Suite など)のインストールおよびライセンスについて説明します:

- Oracle Crystal Ball (Classroom Faculty Edition と Student Edition を含む)
- Oracle Crystal Ball Decision Optimizer
- Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management

第2章「Crystal Ball のインストールとライセンス」で説明されているインストール・プロセスを開始する前に、7ページの「システムの要件」に概略されているソフトウェア要件とハードウェア要件をコンピュータが満たしていることを確認してください。

システムの要件

現在のリリースの Crystal Ball は、サポートされている 32 ビット(x86)または 64 ビット(x64)バージョンの Microsoft Windows および Microsoft Excel で実行できません。

次のビット・レベル互換性が適用されます:

- 32 ビット・レベルの Crystal Ball 製品は、32 ビット・コンピュータ上の 32 ビット Microsoft Excel および Windows で使用する必要があります。
- 64 ビットの Crystal Ball プラットフォームのすべてと、64 ビット・バージョンの Microsoft Windows XP Home Edition Service Pack 3、Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3、Microsoft Windows Server 2003 Service Pack 2/R2+を使

用すると、32 ビット Crystal Ball は、64 ビット・コンピュータ上の 32 ビット Microsoft Excel で、エミュレーション・モードで使用できます。

32 ビット・エミュレーション・モードで実行する場合の Crystal Ball には、32 ビット Microsoft Windows オペレーティング・システムで実行するときと同様に、1-1.5GB のメモリー制限が適用されます。32 ビットに関する他の制限も適用されます。

- 64 ビットの Crystal Ball は、64 ビット・バージョンの Microsoft Excel および Windows と互換性があります。

Crystal Ball 製品をインストールするコンピュータは、次のシステム要件を満たす必要があります:

- 互換性のあるバージョンの Microsoft Windows:
 - 32 ビット Microsoft Windows (32 ビット Crystal Ball の場合) - Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3、Microsoft Windows Server 2003 Service Pack 3、Microsoft Windows Vista Service Pack 2、Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2、Microsoft Windows 7、Microsoft Windows 8
 - 64 ビット Microsoft Windows (エミュレーション・モードでの 32 ビット Crystal Ball、または 64 ビット Crystal Ball の場合) - 64 ビット・バージョンの Microsoft Windows Vista Service Pack 2、Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2、Microsoft Windows 7、Microsoft Windows 8
- 互換性のあるバージョンの Microsoft Excel:
 - 32 ビット Microsoft Excel (32 ビット Crystal Ball の場合) - Microsoft Excel 2003 Service Pack 3、Microsoft Excel 2007 Service Pack 3、32 ビット・バージョンの Microsoft Excel 2010 Service Pack 1、Microsoft Excel 2013
 - 64 ビット Microsoft Excel (64 ビット Crystal Ball の場合) - 64 ビット・バージョンの Microsoft Excel 2010、Microsoft Excel 2013
- Microsoft Internet Explorer 7.0 または 8.0

注: Firefox など他のブラウザも、Crystal Ball のインストールと操作に使用できます。ただし、セキュリティ処理その他の機能によって、他のブラウザでは互換性に問題が発生する可能性があります。

- Microsoft .NET Framework 3.5 または 4.0
- Pentium 相当のマイクロプロセッサ(800 MHz 以上)を搭載したパーソナル・コンピュータ
- 512 MB 以上の RAM
- まだインストールされていない場合には、Microsoft .NET Framework 用のハード・ディスク空き容量と、Crystal Ball 用に約 160 MB の容量。
- ビデオ・グラフィック・アダプタと、解像度 1024x768、16 ビット・カラー以上のモニタ; 幅は 1152 ピクセルを推奨
- Adobe Acrobat Reader 8.0 以降

注： Crystal Ball は、米国標準技術研究所、FDCC の Web サイト(nvd.nist.gov/fdcc/index.cfm)で指定されている標準に従って、Microsoft Windows XP および Vista に対する Federal Desktop Core Configuration (FDCC)の構成要件を満たすように設計されています。詳細は、NIST FDCC の Web を参照してください。

Crystal Ball の国際化・サポート

このバージョンの Crystal Ball は、英語版以外の Microsoft Windows と、同じ言語の Microsoft Office でサポートされています。最新版の Crystal Ball は、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、ポルトガル語、スペイン語で使用できます。Crystal Ball と、Microsoft Windows および Microsoft Excel はすべて同じ言語でインストールする必要があります。

注： カスタム・インストールを選択して、デフォルト以外の言語でヘルプをインストールできます([16 ページの手順 10](#))。

このバージョンを、英語版オペレーティング・システムで英語以外の地域に設定して使用する場合は、Microsoft Office のバージョンに応じた Microsoft Multilingual User Interface (MUI) Pack をインストールすることをお勧めします。(Microsoft Office 2007 以降用は Language Pack と呼ばれています。)Microsoft MUI Pack をインストールしない場合は、Microsoft Excel が地域設定のフォーマットで表示され、Crystal Ball が英語のフォーマットで表示されます。MUI Pack の詳細は、<http://www.microsoft.com> を参照し、Microsoft の Web サイトで MUI Pack を検索してください。

注： 英語版以外の Microsoft Excel 2007 以降で Crystal Ball を使用する場合、.xls 形式の Crystal Ball モデルを Microsoft Excel 2007 以降の形式(.xlsx、.xlsb、.xlsm)で保存すると、警告メッセージが表示されます。これは、ワークブックのスクリプトがサポート外の機能であることを示すメッセージです。このメッセージは無視してください。Crystal Ball データは保存されます。最適な結果を得るために、モデルを保存するときには Crystal Ball を開いているようにしてください。

ヒント： 英語版と各国語版の Crystal Ball を切り替える場合、「分布一覧」のフォルダ名などのプリファレンス文字列は、先にインストールした言語で表示されることがあります。これが発生した場合、ローカライズされたプリファレンス・フォルダを削除してください。次に Crystal Ball を起動するとき、プリファレンスは現在の言語の文字列で表示されるようになります。プリファレンス・フォルダを削除するには、[34 ページの「プリファレンス・ファイルの検索」](#)を参照してください。

Microsoft .NET Framework

Microsoft .NET Framework は、セキュアで高機能の Windows アプリケーションを開発するために Microsoft から公開されているテクノロジーです。現在は、このバージョンの Crystal Ball をインストールしてライセンスする前に Microsoft .NET Framework 3.5 または 4.0 がインストールされている必要があります。Crystal Ball を正しく実行するためには、サポートされているバージョンの Microsoft .NET Framework にロックする必要があります。24 ページの「アプリケーション・マネージャの使用」を参照してください。

Windows の「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で Microsoft 製品のリストを表示すると、Microsoft .NET Framework がインストールされているかどうかと、インストールされている場合はそのバージョンを確認できます。

サポートされているバージョンの Microsoft .NET Framework を使用していない場合は、<http://www.microsoft.com> からダウンロードしてください。

Crystal Ball と Microsoft Windows Vista

Windows Vista の Program Files フォルダにインストールされるファイルは、プロパティが読取り専用設定されていない場合でも、Microsoft Excel では読取り専用として開かれます。Crystal Ball のサンプル・ファイルを変更する場合は、そのシミュレーションを実行する前に別名で保存します。

Windows Vista を使用する場合は、My Documents や Application Data など、このガイドで言及するフォルダの場所を把握しておくようにしてください。たとえば、My Documents は、以前の Windows のように C:\Documents and Settings ではなく、C:\Users 以下にあります。

旧バージョンの Crystal Ball をご使用のユーザーへの注意

重要! 旧バージョンである Crystal Ball 7.x または 11.x がインストールされているコンピュータにこのバージョンの Crystal Ball をインストールすると、確認なしに自動的にこのバージョンに置き換えられます。

注： 状況によっては、Crystal Ball インストールの修復に関するメッセージが表示される場合があります。これは予期された動作です。

Crystal Ball のサンプル・モデルを変更し、同じ名前でも保存していた場合には、変更前のモデルに置き換えられます。このバージョンの Crystal Ball をインストールする前に名前を変更してください。

Crystal Ball Decision Optimizer をご使用のユーザーへの注意

Crystal Ball Decision Optimizer がインストールされている場合、最高速モードの機能がデフォルトでアクティブ化されます。旧バージョンの Crystal Ball で作成されたモデルの一部は、最高速モードでは実行されない場合があります。この場合、問題に関する情報とともに警告メッセージが表示されます。通常モードに落としてシミュレーションを続行できます。詳細は、Oracle Crystal Ball リファレンスおよびサンプル・ガイドを参照してください。

追加リソース

オラクル社は、Crystal Ball 製品をより効果的に使用するためのテクニカル・サポート、トレーニング、追加リソースを提供しています。

これらのリソースに関する詳細は、次にある Crystal Ball の Web サイトを参照してください:

<http://www.oracle.com/crystalball>

2

Crystal Ballのインストールと ライセンス

この章の内容

Crystal Ball のインストールとライセンスに関するガイドライン	13
Crystal Ball のインストール	14
Crystal Ball のライセンス	18
スクリプトによる Crystal Ball のインストールとライセンス	20

Crystal Ball のインストールとライセンスに関するガイドライン

Crystal Ball をインストールおよびライセンスするには、次の手順に従います。正規ライセンス、Textbook ライセンス、Classroom ライセンス、試用版ライセンスのいずれでも、Crystal Ball をインストールする際の基本プロセスは同じです：

1. 7 ページの「システムの要件」のリストに従って、必要なハードウェアとソフトウェアがあることを確認します。
2. 10 ページの「Microsoft .NET Framework」の内容を読み、サポートされているバージョンの Microsoft .NET Framework がコンピュータにインストールされていることを確認します。
3. 32 ビットか 64 ビットの正しい Crystal Ball インストール・ファイルをダウンロードしてあることを確認します。Crystal Ball のインストール中と使用中は、ダイアログによってビット・レベルが指定される場合も、指定されない場合もあります。このドキュメントの図では、32 ビット・バージョンのダイアログを示しています。
4. 次の項14 ページの「Crystal Ball のインストール」の手順に従って、Crystal Ball をインストールします。
5. 18 ページの「Crystal Ball のライセンス」の手順に従って、ユーザー名とシリアル番号を取得し、Crystal Ball ライセンスをアクティブ化します。

注： インストール中に問題が発生した場合には、29 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。

Crystal Ball のインストール

注： 32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの Crystal Ball 製品で、インストール手順はほぼ同じです。この項の図では、32 ビット・バージョンのインストール画面を示しています。

▶ Crystal Ball 製品をインストールするには:

- 1 Crystal Ball ソフトウェアを実行するコンピュータにログインします。
- 2 7 ページの「システムの要件」での推奨に従って、32 ビットか 64 ビットの正しいインストール・ファイルをダウンロードします。
- 3 ダウンロードしたファイルをクリックします。ファイルから、圧縮されていた内容が解凍されます。

CD、またはダウンロードした Crystal Ball インストール・ファイルを解凍したフォルダ(インストール・ソース・フォルダ)には、次のファイルがあります:

- **Crystal Ball Installation Guide.pdf** - Adobe Acrobat .pdf 形式の Oracle Crystal Ball インストールおよびライセンス・ガイド。Crystal Ball のインストール前に.html 形式でこのガイドが必要な場合には、Oracle Technology Network の EPM ドキュメント・ライブラリで「配置」ページからダウンロードできます。このページの表示方法は、33 ページの「README ファイルの確認」を参照してください。
 - **License Key Request Process.html** - Oracle Crystal Ball ライセンス・キー要求プロセス。最初の試用版ライセンスの有効期限後に使用するために、Crystal Ball ライセンス・コードを取得しアクティブ化する方法が説明されています
 - **README.htm** - Crystal Ball の概要紹介、Oracle Technology Network で最新版の Crystal Ball README (リリース・ノート)のファイルを表示する方法、サードパーティのライセンスおよび著作権の一覧が記載されています
 - **ビット別の設定実行可能ファイル** - Crystal Ball の設定を起動します
- 4 インストールが自動的に開始されない場合は、インストール・ファイルがあるフォルダで、設定の実行可能ファイルをダブルクリックします。

注： インストールに失敗する、または警告メッセージが表示される場合は、32 ビット/64 ビットの互換性に問題がある可能性があります。30 ページの「ソフトウェアとハードウェアの 32 ビット/64 ビット互換性に関する問題」を参照してください。

インストールが停止し、別のバージョンの Crystal Ball に関するメッセージが表示された場合は、28 ページの「Crystal Ball の手動アンインストール」を参照し、その指示に従ってください。このメッセージが表示されるのは、Oracle Hyperion Planning の予測プランニング機能など、他の Oracle 製品が以前にインストールされている場合です。「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」のリストにある場合は、「Oracle Crystal Ball」をアンインストールする必要があります。

状況によっては、Crystal Ball インストールの修復に関するメッセージが表示される場合があります。これは予期された動作です。

- 5 指示されたら、設定に使用する言語を選択します。デフォルトは「英語(米国)」ですが、「コントロールパネル」の「地域と言語のオプション」で選択されている言語が、インストール可能な Crystal Ball の言語のいずれかと一致している場合は異なります。

.msi インストール・ファイルを抽出中であるというメッセージが表示されます。これには数分間かかることもあります。抽出が完了すると、Crystal Ball インストーラが起動します(図 1)。

注： まれに、ウイルス対策プログラムによってインストールが遅くなったり、インストール・ダイアログが消える、ダイアログで「取消し」ボタンしか使用できなくなるなど、予期しない結果になる場合があります。このような場合でもインストールは実行されており、10 分以内には通常どおり完了します。

図 1 Crystal Ball インストールの「ようこそ」ダイアログ



- 6 インストール・ウィザードの「ようこそ」ダイアログで、旧バージョンの Crystal Ball がある場合にはアンインストールされることと、Microsoft .NET Framework が必要であることを確認します。

注： サポートされているバージョンの Microsoft .NET Framework が存在しない場合、または不確かな場合には、「次」をクリックします。必要な Microsoft .NET Framework コンポーネントが検索されます。必要なバージョンの Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合はダイアログが開き、Microsoft の Web サイトにアクセスしてダウンロードできるようになります。

7 「次」をクリックして続行します。

以前のバージョンの Crystal Ball があるかどうか確認されます。

8 以前のバージョンの Crystal Ball をアンインストールする確認を求められたら、アンインストールとその確認で「はい」を 2 回クリックします。

共有ファイルのアンインストールを確認されたら、「すべていいえ」を選択します。アンインストールが正常に完了したら、「OK」をクリックします。

9 「お客様の情報」ダイアログに、名前と組織(会社、学校など)を入力し、「次」をクリックします。

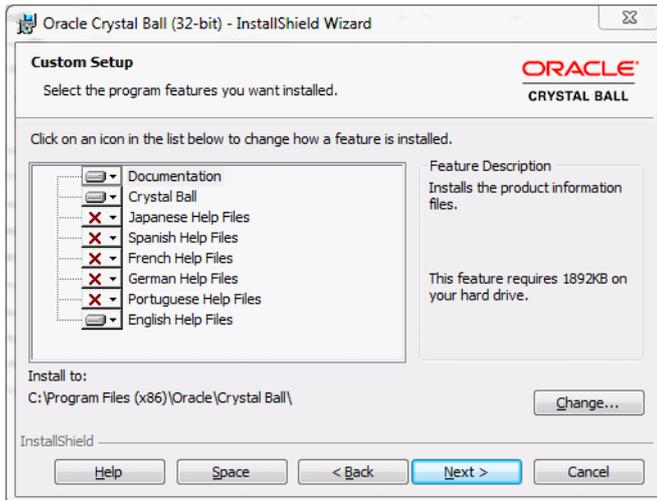
10 「設定タイプ」ダイアログで、「完全(標準)」または「カスタム」の設定を選択します。

- 完全(標準)を選択すると、Crystal Ball 製品パッケージと、製品ドキュメントの HTML ファイルが、デフォルトのインストール・フォルダにインストールされます。

注： Crystal Ball が英語以外の言語でインストールされていないかぎり、「完全(標準)」を選択し、デフォルトのインストール・フォルダにインストールすることを強くお勧めします。32 ビット・バージョンの Crystal Ball を 64 ビット・バージョンの Microsoft Windows にインストールしている場合、デフォルトのインストール・フォルダは C:\Program Files(x86)以下になります。

- 「カスタム」を選択すると、異なるインストール・フォルダを選択できます。デフォルト以外の言語で、オンライン・ヘルプをインストールするよう選択することもできます(図 2)。未選択の言語をインストールするには、X をクリックします。選択した言語のインストールを取り消すには、 をクリックします。

図 2 Crystal Ball の「ヘルプ」の言語のカスタマイズ



注： Crystal Ball に対して選択された言語によって、デフォルトでどのヘルプ・システムをインストールおよび表示するかが決定します。「カスタム」を選択して言語のインストールを編集した場合、デフォルトのインストール・フォルダにインストールすることを強くお勧めします。

今後、言語の選択を変更するには、Windows の「コントロールパネル」を開き、「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」を選択し、「Oracle Crystal Ball」を選択して、変更または修復オプションを選択します。画面上の指示に従って、「カスタム」インストールを選択します。次に、アイコンをクリックして、言語を追加または削除します。

- 11 「次」をクリックします。
- 12 「プログラムのインストールの準備完了」ダイアログで、選択した設定を再確認し、「インストール」をクリックします。
- 13 図 3 は、「InstallShield ウィザード完了」ダイアログを示しています。このダイアログが開いたら、「終了」をクリックします。

これで、Crystal Ball の使用準備が完了します。

図 3 「InstallShield ウィザード完了」ダイアログ



Crystal Ball は、ライセンスなしでも 15 日間まで使用できます。その時点で、使用を続行するにはユーザー名とシリアル番号を入力する必要があります。Crystal Ball の起動時にユーザー名とシリアル番号を入力することも、「ヘルプ」メニュー、または Microsoft Excel 2007 以降の場合は「ヘルプ」グループからコマンドを選択することもできます。次の項 [18 ページの「Crystal Ball のライセンス」](#) を参照してください。

Crystal Ball のライセンス

ライセンスをアクティブ化しない場合、Crystal Ball は 15 日間まで使用できます。この間、Crystal Ball は試用版ライセンスで動作します。試用期間中もすべての機能が使用可能です。Crystal Ball を起動するたびに、Crystal Ball の「ようこそ」画面が表示され、試用版トライアルの有効期限までの残り日数が示されます。

注： この状況は Crystal Ball の Textbook ライセンスでも同様ですが、15 日を超えても、通常は 140 日間有効であり、次の説明に従ってアクティブ化する必要があります。

購入した Crystal Ball のライセンスをアクティブ化するには、Oracle ライセンス・コードを入手し、Crystal Ball にコードを入力する必要があります。

注： コンピュータ上のすべてのユーザーに対して Crystal Ball をライセンスするには、ローカル管理者権限が必要です。一方、1 人のユーザーに対してライセンスする場合には管理者権限は必要ありません。

▶ ライセンス・コードを入手するには:

1 licensecodes_ww@oracle.com 宛てでオラクル社に連絡し、Crystal Ball ライセンス・コードを要求します。

電子メールには、名前、電子メール・アドレス、組織、Oracle カスタマ・サポート ID (CSI)の他に、Oracle カスタマ ID 番号など一意の識別子を記述して

ください。ライセンス資格がある場合には、ユーザー名とシリアル番号(Crystal Ball ライセンス・コード)が送信されます。

Crystal Ball をインストールする環境(デスクトップのみか、マルチユーザー・コンピュータか)を記述します。また、会社で汎用ユーザー名を使用している場合は、それも電子メールに記述してください。

2 オラクル社からの電子メールで Crystal Ball のライセンス・コードを確認します。

licensecodes_ww@oracle.com からの電子メールに、Crystal Ball のユーザー名とシリアル番号が記載されています。

▶ Crystal Ball ライセンス・コードを受け取ったら、次の手順で Crystal Ball をライセンスします:

- 1 オラクル社から受信したユーザー名とシリアル番号を確保した上で、Crystal Ball を起動します。
- 2 Crystal Ball の「ようこそ」画面で、「ライセンスのアクティブ化」をクリックします。
- 3 「ライセンスのアクティブ化」ダイアログの「ユーザー名」ボックスに、オラクル社から提供されたユーザー名を入力します。これは通常、Crystal Ball をダウンロードするときに指定した電子メール・アドレスです。
- 4 「シリアル番号」ボックスに、オラクル社から提供されたシリアル番号を入力します。

電子メールからシリアル番号をコピーして最初の「シリアル番号」ボックス(左端)に貼り付けるのが、最も簡単な方法です。他のボックスにも自動的に正しく貼り付けられます。

5 「OK」をクリックします。

シリアル番号を正しく入力すると、すぐにライセンスがアクティブ化され、確認メッセージが表示されます。確認メッセージで「OK」をクリックすると、Crystal Ball の「ようこそ」画面が表示されます。「Crystal Ball の使用」をクリックして Crystal Ball の使用を開始することも、他のリンクをクリックすることもできます。他のリンクについては、Oracle Crystal Ball ユーザーズ・ガイドを参照してください。「ライセンスのアクティブ化」ダイアログで「既存のライセンスを表示」をクリックすると、ライセンスの説明と有効期限を確認できます。

注： Crystal Ball を複数回ライセンスすると、バージョン 11.1.1 以上の既存のライセンスは除去されます(ただし、以前のライセンスを復元する必要があるときのためにアーカイブされ、「既存のライセンス」ダイアログに表示されます)。

- ▶ Crystal Ball の起動後に、またはライセンスをアクティブ化した後で「ライセンスのアクティブ化」ダイアログを開く必要がある場合は、Microsoft Excel のメニューバーで「ヘルプ」、「Crystal Ball」、「ライセンス」の順に選択します。Microsoft Excel 2007 以降の場合は、「Crystal Ball」リボンの最後(「ツール」グ

ループの次)にある「ヘルプ」で、「リソース」、「ライセンス」の順に選択します。

- ▶ サイレント・インストールの実行については、[20 ページの「スクリプトによる Crystal Ball のインストールとライセンス」](#)を参照してください。

スクリプトによる Crystal Ball のインストールとライセンス

Crystal Ball を多数のコンピュータにインストールする場合、インストールとライセンスにスクリプトを使用すると便利です。

Crystal Ball の .msi インストール・ファイルにアクセスできる場合、次のステートメントを 1 行で入力することで、msiexec を使用してインストールを実行できます:

```
msiexec /i "  
Oracle Crystal Ball.msi filename  
" CBUSERNAME="cbusername" CBSERIALNUMBER=cbserialnumber /qn
```

- Oracle Crystal Ball.msi filename は Oracle Crystal Ball (32-bit).msi または Oracle Crystal Ball (64-bit).msi で、これは 32 ビットと 64 ビットどちらのバージョンの Crystal Ball をインストールしているかによって決まります。
- cbusername と cbserialnumber は、インストールとライセンスの対象製品を所有する特定の個人のユーザー名と Crystal Ball のシリアル番号です。

注: username は、引用符で囲みます。シリアル番号の途中に、空白を追加しないでください。

Web からダウンロードした場合など、Crystal Ball の設定実行可能ファイルにしかアクセスできないときには、次のステートメントでサイレント・インストールとライセンスを同時に実行できます:

```
setupfilename  
/s /v"CBUSERNAME=\ "  
cbusername  
\ " CBSERIALNUMBER=  
cbserialnumber  
/qn"
```

- setupfilename には、ビット・レベル(32 ビットまたは 64 ビット)が含まれません。

関連トピック:

- Crystal Ball msi ファイルを設定実行可能ファイルから抽出するには、21 ページの「管理インストールの実行」を参照してください。
- インストール後に Crystal Ball を自動的にライセンスするには、21 ページの「インストール後に Crystal Ball を自動的にライセンス」を参照してください。
- 手動で、またはスクリプトを使用して Crystal Ball をアンインストールするには、27 ページの「Crystal Ball のアンインストール」を参照してください。

管理インストールの実行

Crystal Ball インストーラは現在、.msi ファイルではなく設定実行可能ファイルとして提供されますが、スクリプトによるインストール・プロセスの一部には.msi が必要です。Crystal Ball.msi ファイルを使用する必要がある場合は、管理インストールを実行し、抽出した.msi ファイルを指定のフォルダに格納できます。

- ▶ 管理インストールを実行して、抽出したインストール・ファイルを格納するには:
 - 1 Microsoft Windows で、「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択します。
 - 2 編集ボックスに `cmd` と入力し、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
 - 3 `cd` と `dir` を使用して、Crystal Ball の設定実行可能ファイルが置かれているフォルダに移動します。
 - 4 コマンド・プロンプトで次のように入力します: `setup_filename /a`
 - 5 ファイルの場所を求められたら、既存または新規のフォルダ(`C:\temp` など)を入力します。

設定実行可能ファイルの内容が、Crystal Ball の.msi ファイルも含めてフォルダに抽出され、確認や使用が可能になります。

インストール後に Crystal Ball を自動的にライセンス

コマンドラインのコードを使用すると、`CBLicenseActivator.exe` を呼び出してユーザー名とシリアル番号の組合せをアクティブ化できます。

- ▶ Crystal Ball を自動的にライセンスするには:
 - 1 Microsoft Windows で、「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択します。
 - 2 編集ボックスに `cmd` と入力し、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
 - 3 `cd` コマンドを使用して、Crystal Ball インストール・フォルダ以下にある `bin` フォルダに移動します。デフォルトでは、`C:\Program Files\Oracle\Crystal Ball\bin` です。
 - 4 プロンプト記号のところに、次のテキストを入力します:

```
CBLicenseActivator.exe "username" serialnumber
```

ここで、username は指定されたシリアル番号のユーザー名です。

注： username は引用符で囲みます。シリアル番号の途中には空白を追加しないでください。

ライセンスが正常にアクティブ化されると、コマンドラインの下にメッセージが表示されます。これはライセンスが正常にアクティブ化されたという内容のメッセージで、ユーザー名、シリアル番号、バージョンなどのライセンス情報と、ライセンスされた製品についての説明も表示されます。

エラーが発生した場合、例外メッセージが表示され、コマンドラインの終了コードがゼロ以外の値に設定されます。

3

インストール後の手順とトラブルシューティング

この章の内容

Crystal Ball の起動	23
Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作	26
Crystal Ball のアンインストール	27
トラブルシューティング	29
Crystal Ball の詳細	34

この章では、インストール後の手順を示し、またインストール、ライセンス、起動に伴って発生する可能性がある問題とその対処方法についても説明します。

Crystal Ball の起動

- ▶ Crystal Ball を起動するには、Windows のタスクバーから「スタート」、「すべてのプログラム」、「Oracle Crystal Ball」、「Crystal Ball」の順に選択します。

次の項では、Crystal Ball の「ようこそ」画面の使用方法和、Crystal Ball を Microsoft Excel とともに自動的に起動する方法について説明します：

- 23 ページの「「ようこそ」画面」
- 24 ページの「Microsoft Excel とともに自動起動」

「ようこそ」画面

Crystal Ball を起動すると、「ようこそ」画面が表示されます。アプリケーション・タイプ設定の詳細は、 ボタンをクリックしてください。「アクセシビリティ」設定を選択した場合、画面読上げの補助テクノロジーを必要とするユーザーのための「アクセシビリティ」モードがアクティブ化されます。「リソース」ハイパーリンクからは、Crystal Ball に関する情報にアクセスします。最後に、いずれかのアイコンをクリックして Crystal Ball を使用すると、Microsoft Excel ワークブックが開くか、Crystal Ball の「サンプル・ガイド」が開きます。「Crystal Ball の使用」をクリックすると「ようこそ」画面が閉じ、すぐに Microsoft Excel に移動します。

試用版など有効期限のあるバージョンの Crystal Ball を使用している場合、ライセンスの有効期限までの残り日数を確認できます。正規ライセンスのユーザー名とシリアル番号を持っていて、まだ入力していない場合は、ボタンをクリックして正規ライセンスの Crystal Ball をアクティブ化できます。

Microsoft Excel とともに自動起動

次のトピックでは、Microsoft Excel とともに自動的に起動するように Crystal Ball を設定する方法について説明します:

- [24 ページの「アプリケーション・マネージャの使用」](#)
- [24 ページの「COM アドイン・マネージャの使用」](#)
- [25 ページの「Crystal Ball Developer Kit の使用」](#)

アプリケーション・マネージャの使用

Microsoft Excel とともに自動的に起動するように Crystal Ball を設定するには、Crystal Ball アプリケーション・マネージャを使用します。手順については、[26 ページの「Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作」](#)を参照し、Microsoft Excel とともに自動的に Crystal Ball を起動する最初の設定が選択されていることを確認してください。

COM アドイン・マネージャの使用

サブトピック

- [Microsoft Excel 2003 の場合](#)
- [Microsoft Excel 2007 以降の場合](#)

Microsoft Excel を起動してから、COM アドイン・マネージャを使用して Crystal Ball をロードまたはアンロードすることができます。また、この Microsoft Excel ツールを使用すると、Microsoft Excel を起動するたびに Crystal Ball を起動することもできます。

このような目的で COM アドイン・マネージャを使用するには、Microsoft Excel のバージョンに応じて次の手順に従ってください:

- [24 ページの「Microsoft Excel 2003 の場合」](#)
- [25 ページの「Microsoft Excel 2007 以降の場合」](#)

注意 予期しない結果を回避するために、他の COM アドインが Microsoft Excel にロードされている場合は、Crystal Ball をアンロードしないでください。

Microsoft Excel 2003 の場合

▶ Microsoft Excel 内で Crystal Ball をアンロードするには:

1 次の手順に従って、使用可能な COM アドインのリストを表示します:

- 「表示」メニューで「ツールバー」を選択し、「ユーザー設定」をクリックします。
- 「コマンド」タブをクリックします。
- 「分類」ボックスで「ツール」をクリックします。

- 「コマンド」ボックスで「COM アドイン」を選択し、ツールバー、たとえば Microsoft Excel メニューバーまでドラッグします。
 - ツールバーで「COM アドイン」をクリックし、使用できるアドインのリストを表示します。
- 2 「COM アドイン」ダイアログで、「Crystal Ball」を選択します。
 - 3 「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、Microsoft Excel で Crystal Ball を開きます。

Microsoft Excel から Crystal Ball をアンロードするには、手順 1 に従い、手順 2 で「Crystal Ball」の選択を解除してください。

Microsoft Excel 2007 以降の場合

▶ Microsoft Excel 内で Crystal Ball をアンロードするには:

- 1 「Office」ボタン  をクリックするか、「ファイル」リボンを選択します。
- 2 Microsoft Excel の「オプション」ボタンをクリックし、「アドイン」リンクをクリックします。
- 3 「アドイン」ダイアログの下部にある「管理」リストで「COM アドイン」を選択し、「設定」をクリックします。
- 4 「COM アドイン」ダイアログで、「Crystal Ball」を選択します。
- 5 「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、Microsoft Excel で Crystal Ball を開きます。

Microsoft Excel から Crystal Ball をアンロードするには、手順 1 から 3 に従い、手順 4 で「Crystal Ball」の選択を解除してください。

Crystal Ball Developer Kit の使用

VBA プログラミングをよく理解している場合は、Crystal Ball Developer Kit を使用して Crystal Ball を Microsoft Excel にロード、または Microsoft Excel からアンロードすることができます。詳細は、Oracle Crystal Ball 開発者ガイドを開き、第 2 章の Crystal Ball の起動と停止に関する項にリストされている呼出しを参照してください。

注： Developer Kit の有効化については、26 ページの「Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作」を参照してください。

注意 予期しない結果を回避するために、他の COM アドインが Microsoft Excel にロードされている場合は、Crystal Ball をアンロードしないでください。

Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作

Crystal Ball アプリケーション・マネージャを使用する目的は、いくつかあります:

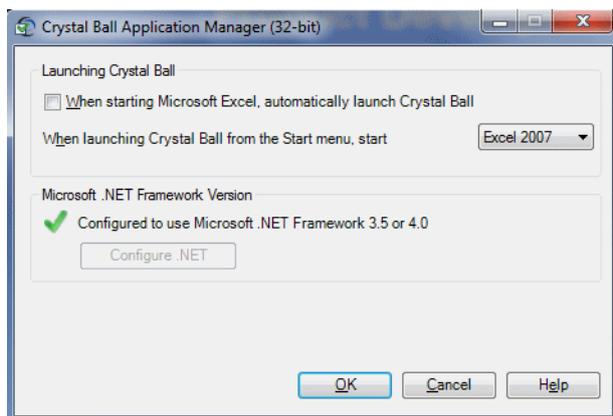
- Microsoft Excel を起動するたびに Crystal Ball を起動する
- サポートされているバージョンの Microsoft .NET Framework が構成されていることを確認する
- Crystal Ball Developer Kit を有効にする

Crystal Ball のアプリケーション・マネージャには、32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンがあります。

▶ アプリケーション・マネージャを使用するには:

- 1 「スタート」から、「すべてのプログラム」、「Oracle Crystal Ball」、「Application Manager」の順に選択します。
- 2 アプリケーション・マネージャ(図 4)で、適切な Microsoft Excel と Microsoft .NET Framework の設定を行います:

図 4 Crystal Ball アプリケーション・マネージャ



- Microsoft Excel を起動するたびに Crystal Ball を起動するには、「Microsoft Excel の起動時に、Crystal Ball を自動的に起動」を選択します。
同じコンピュータ上で他のユーザーが Crystal Ball を使用している場合は、ユーザーごとに別々の起動設定が可能です。
- 複数のバージョンの Microsoft Excel がインストールされている場合は、Crystal Ball を起動する Microsoft Excel のバージョンを選択します。
- Microsoft Excel .NET Framework が構成されている場合、「Microsoft .NET Framework 3.5 または 4.0 を使用するよう構成」をチェックします。それ以外の場合、Microsoft .NET 構成が見つからないというメッセージが表示されます。

Microsoft .NET 構成が見つからない場合、「.NET を構成」をクリックして、Crystal Ball を実行するように Microsoft Excel が適切に構成されていることを確認します。

注： 構成では、.NET Framework 4.0 のみを使用したコンピュータで確実に Crystal Ball が実行される必要があります。

- 3 オプション:** Microsoft Excel 2010 以上では、セルに関数名を入力する際に「数式オートコンプリート」機能を使用したときの、Crystal Ball Developer Kit のすべての関数がリストされます。Microsoft Excel 2010 以上を使用している場合は、さらに「起動時に Developer Kit をロード」というチェック・ボックスも表示されます。このチェック・ボックスはデフォルトで選択されています。Developer Kit を無効にし、Crystal Ball の関数をオートコンプリート・リストから除去するには、このチェック・ボックスの選択を解除します。

Crystal Ball Developer Kit を無効にしている場合は、必要に応じて有効にします:

- Crystal Ball Developer Kit を使用する場合
- Crystal Ball がデフォルトの場所にはインストールされておらず、特定の Crystal Ball ツールで問題が発生する場合
- それ以外に指示された場合

- 4** 設定が完了したら、「OK」をクリックします。

注： Microsoft Excel を開くたびに Crystal Ball が自動的に起動するように設定していて、Crystal Ball が正常なロードに失敗する場合は、Crystal Ball アプリケーション・マネージャの最初のチェック・ボックスの選択を解除します。Crystal Ball が再び Microsoft Excel とともに自動的に起動するには、再度選択する必要があります。

Crystal Ball のアンインストール

既存リリースの Crystal Ball 7.x または 11.x を置き換えている場合は、このバージョンの Crystal Ball をインストールする前に自動的にアンインストールされます。ただし、次の場合は手動で Crystal Ball をアンインストールする必要があります:

- ベータ版など、リリース版ではないバージョンの Crystal Ball がインストールされている場合
- インストーラを実行せずにアンインストールする場合
- 現在のバージョンの Crystal Ball を除去し、以前のバージョンに戻す場合
- インストールが停止し、あるバージョンの Crystal Ball がインストールされているというメッセージが表示された場合

注： Crystal Ball がすでに存在するというメッセージは、予期せず発生することがあります。これは、以前にインストールされていた他の Oracle 製品、たとえば Oracle Hyperion Planning の予測プランニング機能などが原因です。28 ページの「Crystal Ball の手動アンインストール」の手順に従い、「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」のリストにある場合は、手動で「Oracle Crystal Ball」を削除してください。

次のトピックでは、Crystal Ball をアンインストールする方法について説明します:

- 28 ページの「Crystal Ball の手動アンインストール」
- 28 ページの「スクリプトによる Crystal Ball のアンインストール」

Crystal Ball の手動アンインストール

▶ Crystal Ball を手動でアンインストールするには:

- 1 Crystal Ball クライアント・ソフトウェアを実行しているコンピュータにログインします。
ローカル管理者権限が必要です。
- 2 「スタート」から「設定」、「コントロールパネル」、「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」を選択します。
- 3 プログラムのリストから、「Oracle Crystal Ball」製品を選択します。
- 4 「変更と削除」をクリックします。
- 5 確認ダイアログで「はい」をクリックすると、Crystal Ball 製品のアンインストールが続行されます。
- 6 アンインストール中に共有ファイルの除去を確認されたら、「すべていいえ」を選択します。アンインストールが続行されます。
- 7 アンインストールが完了したら、「OK」をクリックします。

スクリプトによる Crystal Ball のアンインストール

▶ msixec コマンドを使用してサイレント・アンインストールを実行するには:

- 1 Microsoft Windows で、「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- 2 編集ボックスに `cmd` と入力します。
- 3 コマンド・プロンプトに、次のフォームで `msixec` のアンインストール・コマンドを入力します:
`msixec /x <product.msi | {product GUID}> /qn`

`product.msi` の部分には Crystal Ball `msi` の名前を使用するか、インストールされているバージョンの Crystal Ball の製品 GUID を使用します。`msixec` の詳細は、<http://www.microsoft.com> を参照するか、コマンド・プロンプトで `msixec ?` と入力してください。

Crystal Ball `msi` の詳細は、20 ページの「スクリプトによる Crystal Ball のインストールとライセンス」を参照してください。

トラブルシューティング

サブトピック

- [アドイン無効のメッセージ](#)
- [インストール中にウイルス対策の警告が表示される](#)
- [ソフトウェアとハードウェアの 32 ビット/64 ビット互換性に関する問題](#)
- [互換性に関するその他の問題](#)
- [「スタート」メニューから Crystal Ball を実行](#)
- [Crystal Ball ツールの問題](#)
- [README ファイルの確認](#)
- [インストール・ログ・ファイルその他のログ・ファイルの表示](#)
- [プリファレンス・ファイルの検索](#)

次の項では、Crystal Ball のインストールまたはアンインストール中に発生する可能性があるエラー・メッセージ、およびその他の問題について説明します。トラブルシューティングのヘルプについては、まずここを確認し、それでも問題が解決しない場合は、テクニカル・サポートに問い合わせてください。

アドイン無効のメッセージ

Crystal Ball を起動しようとして Microsoft Excel が予期せずに終了する場合は、Microsoft Excel で Crystal Ball アドインが無効になっていて Crystal Ball が起動しない可能性があります。Microsoft Excel に Crystal Ball ツールバーは表示されていても、Crystal Ball はロードされていません。

Crystal Ball アドインが無効になっていると考えられる場合は、「スタート」から「すべてのプログラム」、「Oracle Crystal Ball」、「Application Manager」の順に選択します。次に、アプリケーション・マネージャを閉じます。Microsoft Excel で Crystal Ball が無効な場合、警告メッセージが表示される可能性があります。

▶ Microsoft Excel 2003 以前において、Crystal Ball を Microsoft Excel アドインとして再度有効にするには:

- 1 「ヘルプ」、「Microsoft Excel のバージョン情報」、「使用できないアイテム」の順に選択します。
- 2 「使用できないアイテム」ダイアログで「crystal ball」を選択し、「有効にする」をクリックします。

▶ Microsoft Excel 2007 以降において、Crystal Ball を Microsoft Excel アドインとして再度有効にするには:

- 1 「Office」ボタンをクリックするか、「ファイル」リボンを選択します。
- 2 メニュー・ウィンドウで、ウィンドウの下部にある「オプション」をクリックします。
- 3 「Excel のオプション」ダイアログで、「アドイン」を選択します。
- 4 「アドイン」パネルの下部にある「管理」ドロップダウン・リストで「使用できないアイテム」を選択し、「設定」をクリックします。

- 5 「使用できないアイテム」ダイアログで「crystal ball」を選択し、「有効にする」をクリックします。

インストール中にウイルス対策の警告が表示される

Crystal Ball は、インストール時に Microsoft インストーラ、msiexec.exe を使用します。Microsoft の Web サイトで公開されているナレッジベースの記事によると、一部のウイルス対策アプリケーションでは Microsoft インストーラが悪意のあるスクリプトとして識別されます。

悪意のあるスクリプトが検出されたという警告メッセージが表示された場合は、「今回のみ許可」などのオプションを選択できます。

ソフトウェアとハードウェアの 32 ビット/64 ビット互換性に関する問題

現在のリリースの Crystal Ball 製品は 32 ビットと 64 ビットのコンピュータ上で動作し、それぞれのビット・レベルに別々のインストーラがあります。Crystal Ball、Microsoft Excel、Microsoft Windows で互換性のあるビット・レベルについては、[7 ページの「システムの要件」](#)を参照してください。

各アプリケーションとコンピュータのビット・レベルに互換性がない場合は、サイレント障害が発生し、警告メッセージが表示されます。互換性エラーは、64 ビット・コンピュータを使用している場合に起こりやすくなりますが、32 ビット・コンピュータで 64 ビット・インストーラを使用しようとした場合にも発生することがあります。考えられるエラーは次のとおりです：

- **32 ビット・コンピュータの場合** - 次のようなメッセージでインストールに失敗します：「このインストール・パッケージはこのプロセッサ・タイプでサポートされません。製品のベンダーにお問い合わせください。」

原因: 64 ビットの Crystal Ball インストーラを使用しようとした可能性があります。

解決策: 32 ビットの Crystal Ball インストーラを使用して、再度インストールしてください。

- **64 ビット・コンピュータの場合** - Excel が見つからないという警告が発生し、インストールは続行されますが、Crystal Ball は起動しません。

原因 1: 64 ビットの Microsoft Excel および Windows で 32 ビットの Crystal Ball を使用しています。

解決策 1: Crystal Ball をアンインストールし、64 ビット・インストーラを使用して再度インストールしてください。

原因 2: 64 ビットの Crystal Ball インストーラを使用しましたが、インストールされている Microsoft Excel が 32 ビット・バージョンです。

解決策 2: Crystal Ball をアンインストールし、32 ビット・インストーラを使用して再度インストールしてください。

互換性に関するその他の問題

サブトピック

- [最高速モード](#)
- [データ変換](#)
- [分布の適合](#)
- [Crystal Ball の Microsoft Excel 関数](#)
- [CB.Get...関数が予測として定義されているモデルの変換](#)
- [Microsoft Excel 2003 以前のバージョンにおける下位互換性](#)

この項で説明する互換性の問題のほとんどは、旧バージョンの Crystal Ball で作成したモデルをこのバージョンで使用したときに発生します。バージョンの異なる Microsoft Excel で作成した Crystal Ball ファイルの互換性については、[付録 A 「Microsoft Excel 2007 以降の互換性と変換に関する問題」](#) を参照してください。

最高速モード

最高速モードで Crystal Ball を使用している場合、この機能はデフォルトでアクティブです。旧バージョンの Crystal Ball で作成されたモデルの一部は、最高速モードでは実行されない場合があります。この場合、問題点を示す警告メッセージが表示されます。通常モードに落としてシミュレーションを続行できます。詳細は、Oracle Crystal Ball ユーザーズ・ガイドの最新版で、最高速モードに関する付録を参照してください。

データ変換

旧バージョンの Crystal Ball からモデルをロードする場合、変換が必要であれば現在の形式へのデータ変換が可能なかぎり試みられます。これが可能ではない場合、指定されたワークシートのデータを変換できなかったというエラー・メッセージが表示されます。モデルが格納されている同じフォルダに、エラー・ログが書き込まれます。ログは、ワークシート名に name.xls.CB.txt を付けたファイル名になります。たとえば Model2.xls で変換エラーがあった場合、ログ・ファイル名は Model2.xls.CB.txt となり、テキスト・エディタで開いて確認できます。

分布の適合

バージョン 11.1.1.0.00 より前の Crystal Ball で作成されたモデルをバージョン 11.1.1.0.00 以降の Crystal Ball にロードすると、以前のデフォルト設定(「すべての連続」と「アンダーソン=ダーリング」)は、現在のデフォルト設定(「自動選択」と「自動選択」)に変換されます。

Crystal Ball の Microsoft Excel 関数

このバージョンの Crystal Ball で Microsoft Excel 関数として実装されている Crystal Ball の分布とマクロを表示するには、「挿入」、「関数」の順に選択します。次に、「関数の分類」で Crystal Ball 関数を開きます。現在実装されている関数が、先頭に CB と付いた名前が表示されます。確率分布関数については、Oracle Crystal Ball

ユーザーズ・ガイドの付録 A と、Crystal Ball オンライン・ヘルプを参照してください。CB.GetAssumPercentFN のように、CB で始まって FN で終わるその他の関数については、Oracle Crystal Ball 開発者ガイドを参照してください。

注： Microsoft Excel 2010 以上では、Crystal Ball 関数を表示する方法が多少異なります。詳細は、[26 ページの「Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作」](#)を参照してください。

CB.Get...関数が予測として定義されているモデルの変換

Crystal Ball 7.0 以前のバージョンのユーザーは、最適化などで現在のデータを含めるために、予測セルで CB.Get...関数を使用している場合があります。このようなモデルを、最高速モードの Oracle Crystal Ball Decision Optimizer で使用しようとすると、互換性エラーが発生します。

これらのモデルを最高速モードで互換になるように変更するには、予測セルから CB.Get...関数を除去してください。あるいは、「予測の定義」ダイアログまたは「予測プリファレンス」ダイアログを拡張して「自動抽出」タブを使用し、シミュレーション後に予測データを自動的に他のセルに抽出します。これにより、予測式でそのセルを参照し、現在のデータを使用しながら互換性を維持できます。

このような変更を行わず、通常モードでモデルを実行する場合は、「実行プリファレンス」ダイアログで「計算エラー時に停止」の選択を解除し、シミュレーションの最初の 5 回から 10 回の試行で返される統計の多くで計算エラー(#VALUE)が発生しても実行を続けるようにする必要があります。

Microsoft Excel 2003 以前のバージョンにおける下位互換性

旧バージョンである Crystal Ball 7.x または 11.x で使用できない機能をサポートしているファイルの場合、その機能は旧バージョンで無視されますが、可能な範囲の機能を使用してファイルが開かれ、実行されます。

たとえば、Crystal Ball 7.3.x 以降の結果をそれより前のバージョンの Crystal Ball にロードしようとすると、選択した結果セットに含まれている Crystal Ball データをロードできないというエラー・メッセージが表示されます。このエラーの原因の 1 つは、Crystal Ball 7.3 で新しいグラフ・タイプとして散布図が追加されたことにあります。または、Crystal Ball 7.3 で追加されたベータ PERT 分布が原因である可能性もあります。この場合、保存されている結果のみではなく、モデル全体をロードするとよい場合があります。散布図またはベータ PERT 分布を含むモデルを旧バージョンの Crystal Ball にロードすると、モデルが実行され、新しいグラフや分布は無視されます。

「スタート」メニューから Crystal Ball を実行

複数のバージョンの Microsoft Excel がコンピュータにインストールされていて、使用したいバージョンの Microsoft Excel で Crystal Ball の起動に問題がある場合は、Crystal Ball アプリケーション・マネージャを使用して優先バージョンを設定します。手順については、[26 ページの「Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作」](#)を参照してください。

Crystal Ball ツールの問題

26 ページの「Crystal Ball アプリケーション・マネージャの操作」では、Crystal Ball Developer Kit を無効にし、その関数を Microsoft Excel 2010 以上のオートコンプリート・リストから除去する方法が説明されています。Crystal Ball Developer Kit を無効にしており、Crystal Ball ツールの一部で問題が発生する場合は、アプリケーション・マネージャを使用して再度 Developer Kit を有効にしてください。

README ファイルの確認

これ以外の既知の問題と、その解決方法については、Crystal Ball README (リリース・ノート) ファイルを確認してください。Oracle Technology Network (OTN) に掲載されている Enterprise Performance Management ドキュメント・ライブラリからダウンロードできます。

▶ このファイルを開く、またはダウンロードするには:

1 次に移動します:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/epm/documentation/index.html>

2 バージョン 11.1.2 の「ライブラリの表示」をクリックします。

3 「配置」タブで、Oracle Crystal Ball, Fusion Edition Readme を探し、リンクをクリックします。

インストール・ログ・ファイルその他のログ・ファイルの表示

Crystal Ball をインストールする際、すべての設定と、インストール中に実行されたコマンドに関するログが、**cbmsiinstall.txt** というファイル名でコンピュータの %temp% フォルダに書き込まれます。Crystal Ball のインストール中に問題が発生する、または Crystal Ball の使用中に Microsoft エラーが表示される場合は、問合せの際にこのログ・ファイルを Crystal Ball テクニカル・サポートに送付してください。ログ・ファイルを開くには、「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」ダイアログに次のように入力します:

```
%temp%\cbmsiinstall.txt
```

メモ帳でログ・ファイルが開きます。デスクトップや My Documents に保存すれば、電子メールに添付するとき簡単です。

その他のログ・ファイルを検索するには、Microsoft Windows で非表示のフォルダおよびファイルが表示されるようにし、C:\Documents and Settings\\Application Data\Oracle\Crystal Ball\11.0 に移動します。Windows Vista を使用している場合、または単にすばやく移動する場合は、My Computer または Windows エクスプローラで %appdata%\Oracle\Crystal Ball\11.0 のように場所を入力します。次に、Logs フォルダを開いてファイルを探します。

プリファレンス・ファイルの検索

実行プリファレンスや、「分布一覧」におけるユーザー定義フォルダ名などのグローバル・プリファレンスを設定する場合、設定はプリファレンス・ファイルに保存されます。プリファレンス・ファイルを検索するには、Microsoft Windows で非表示のフォルダおよびファイルが表示されるようにし、C:\Documents and Settings\\Application Data\Oracle\Crystal Ball\11.0 に移動します。Windows Vista 以降を使用している場合、または単にすばやく移動する場合は、My Computer または Windows エクスプローラで%appdata%\Oracle\Crystal Ball\11.0 のように場所を入力します。次に、Store フォルダを開いてファイルを探します。

Crystal Ball の詳細

Crystal Ball 製品について疑問や問題点がある場合は、次の Crystal Ball Web サイトにアクセスし、最新情報と連絡先を確認してください:

<http://www.oracle.com/crystalball>

A

Microsoft Excel 2007以降の互換性と変換に関する問題

この付録の内容

Microsoft Excel 2007 以降のファイル・タイプ	35
Crystal Ball の新しいデータ形式	35
Microsoft Excel 2007 における Analysis Toolpak 関数の移植性.....	36
Microsoft Excel 2007 以降への変換	36
まれに発生するデータ損失のシナリオ.....	37

Microsoft Excel 2007 以降のファイル・タイプ

バージョン 2007 から、Microsoft Excel では 3 種類の XML ベースのファイル形式が新しくサポートされるようになりました:

- XLSX - VBA やマクロをサポートしない Office Open XML 形式
- XLSM - VBA やマクロをサポートする Office Open XML 形式
- XLSB - Office オープン・バイナリ形式(XML データではなくバイナリ・データを含む XML 構造)

デフォルトでは、Microsoft Excel 2007 以降で作成される新規ワークブックはすべて、このいずれかの形式になります。

ファイル拡張子が XLS である Microsoft Excel 97-2003 形式のワークブックも、Microsoft Excel 2007 以降で開くことができます。古いワークブックは特別な互換モードで開かれる(ウィンドウ・タイトルで、ファイル名の後に[互換モード]が付いて識別されます)、新しいファイル形式と同じように扱うことができます。ただし、拡張グリッド・サイズ、新しいグラフ・タイプなど Microsoft Excel 2007 以降の新機能は使用できません。

Microsoft Excel 2007 以降で「名前を付けて保存」コマンドを使用すれば、古い XLS ファイルを新しいファイル形式に変換することも、逆に新しいファイル形式を XLS に変換することもできます。

Crystal Ball の新しいデータ形式

Crystal Ball 7.3.x から、Crystal Ball は Microsoft Excel 2007 以降のファイル内に新しい形式でデータを格納するようになりました。Crystal Ball の古いデータ形式は、Microsoft Excel 2007 以降で最初に「保存」または「名前を付けて保存」コマンド

を使用したとき、新しい形式に変換されます。ファイルを保存するとき、Crystal Ball がロードされている必要があります。

古い XLS ファイルを Microsoft Excel 2007 以降の新しい形式に変換する前に、安全策として古いワークブックのバックアップ・コピーを作成しておくことをお勧めします。

Microsoft Excel 2007 における Analysis Toolpak 関数の移植性

Microsoft Excel 2003 以前では、英語版の Windows で英語の Analysis Toolpak 関数を使用して作成したモデルを、他の言語環境に移植することはできませんでした。関数名が認識されなかったためです。Microsoft Excel 2007 以降では Analysis Toolpak がコア XLL の一部になったため、この問題が解消されています。

Microsoft Excel 2007 以降への変換

▶ XLS ワークブックを新しいファイル形式に変換するには、まず XLS ワークブックのバックアップ・コピーを作成してから、次の手順に従うことをお勧めします:

1 Crystal Ball をロードして Microsoft Excel 2007 以降を実行します。

注： Crystal Ball がロードされていない場合は、スクリプト・オブジェクトに関する警告メッセージが表示されることがあります。「OK」をクリックして、続行します。

2 XLS ワークブックを開きます。

3 Office ボタンから「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」コマンドには、異なるファイル形式を選択できるサブメニューがあります。あるいは、「名前を付けて保存」ダイアログでファイル形式を選択することもできます。

新しいファイル形式でファイルを保存すると、Crystal Ball データが Microsoft Excel 2007 以降の形式に変換されます。

Microsoft Excel 2007 以降への変換コマンドの使用

Microsoft Excel 2007 以降の Office ボタンにある「変換」コマンドを使用して、XLS ワークブックを Microsoft Excel 2007 以降の形式に変換することもできます。Crystal Ball データは、ワークブックを保存するとすぐに現在の形式に変換されます。

ただし「変換」コマンドの場合、変換中に古い XLS ファイルが除去されるという副作用があります。XLS ファイルのバックアップ・コピーを保持する場合は、「名前を付けて保存」コマンドを使用することをお勧めします。

まれに発生するデータ損失のシナリオ

まれなケースですが、一連の変換プロセスで Crystal Ball データが失われることがあります。

実質的にすべての問題を回避するために、Crystal Ball データを含むファイルを開いて保存するときは必ず、Crystal Ball 7.3. x 以降を開いておくようにしてください。

これを行った場合、データが失われることはまずありません。ただし、データ損失を回避するために次の点に注意してください。

新しい形式で保存してから、古い形式で再保存

- ▶ データが失われる可能性があるため、次のような状況は回避してください:
 - 1 Crystal Ball 7.3.x 以降をロードせずには Microsoft Excel 2007 以降を実行します。
 - 2 XLS ワークブックを Microsoft Excel 2007 以降のファイル形式で保存します。
 - 3 別のセッションで、再び Crystal Ball 7.3.x 以降をロードせずには Microsoft Excel 2007 以降を実行します。
 - 4 手順 2 で作成したワークブックを開き、XLS 形式で再保存します。

Microsoft Excel 2003 以前の形式で保存し、再保存

- ▶ データが失われる可能性があるため、次のような状況は回避してください:
 - 1 XLS ワークブックを Microsoft Excel 2007 以降のファイル形式で保存します。
 - 2 手順 1 で作成したワークブックを開き、同じファイル形式または XLS 形式で再度保存します。

このようなシナリオが発生した場合は、カスタマ・サポートに連絡して追加の指示を受けてください。連絡先の情報については、次を参照してください:

<http://www.oracle.com/crystalball>

